

## 織田 昭著『新約聖書のギリシャ語文法』 (CD-ROM 版)

杉山 世民

『プロピレア』誌創刊十周年記念号に織田 昭著『新約聖書のギリシャ語文法』について紹介しましたが、同著『新約聖書ギリシャ語小辞典』が電子化されて J-Bible という聖書ソフトとして既に発刊された関係上、文法書も先に電子化される事になりました。文法書は、かなりの大著ですが既に入力は済んでおり、今年の春には、J-Bible のアド・オンソフトとして発刊される予定です。

CD-ROM 版の文法書では、コンピューターという機械的特徴を生かした工夫がなされています。例えば、印刷本では「脚注」をどこに置くかは、いつも悩まされる問題なのですが、この CD-ROM 版では、特殊な動作をするようにプログラムされています。本文の「注」の部分をクリックすれば、脚注の内容のページ全体が画面に出てくるように工夫されていて、実に利便性の高いソフトに仕上がっています。これは、印刷本では適わない CD-ROM ならではの業とすることができましよう。

この織田 昭著『新約聖書のギリシャ語文法』は大阪聖書学院の教室での教科書として編集されたものではありませんが、前課が学習されていれば、順々に知識が積み上げられて行く「積み上げ方式」の独習書として編集されています。特に、この文法書の練習問題は、緻密に考慮されており各課のポイントを効果的に練習できるようになっています。また、17課までは単純動詞組織を学習し、17課からは名詞(実詞、分詞)組織に入るという風に、36課まで行くと新約聖書を読むに必要な文法事項は、ほぼ学習できます。36課からの練習問題は、新約聖書本文からなされ実践的です。37課からは統語法(シンタックス)という詳しい文法論に入り、40課では、現在幹の分類や成り立ちという活用組織の詳しい説明が施され、特に、通常、単に不規則変化として見過ごされるものに歴史的な詳しい説明がなされています。この CD-ROM 版からのデータ出力による印刷本も企画されており鋭意、準備がなされているところです。

第 5 課

動詞の表現機能

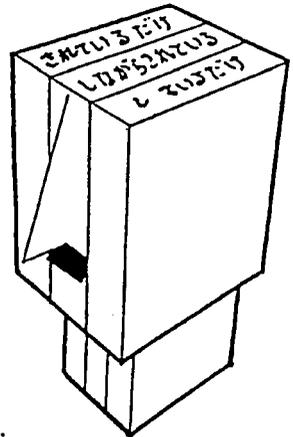
(ギリシャ人は動作や状態をどのように把握したか?)

§ 20. ギリシャ人のあたま (動詞序説)

動作や状態を思考するとき、ギリシャ人はこれを三つの基本的角度から'捕らえた。

1. 主語は動作を「している」のか、「されている」のか、両方か?

その文の主語と動作の関係は、「主語が動作を行っているだけ」なのか? 「主語が動作を他者から受けているだけ」なのか? それとも「主語が自分で動作を行いながら、何らかの形でその動作を自分の身に受け、あるいは動作の結果に身を以て係わっている」のか? この面での動作の捕らえ方の区分を「相」と呼ぶ。「相」はまた「態」と訳されることもある。英語の文法用語で言う voice がこれに当り、ギリシャ語では φωνή と呼ばれる。「相」の考え方がどれだけギリシャ人の頭に深く根ざしていたかは、「能動」と「受動」という概念がアリストテレスの10個の「範疇」に含まれる事実からもうかがわれる。



2. 話者はその動作(状態)を事実として確信を持って判断するのか? それともある程度は不確実なのか?

話者(記者)はその文が表現する動作や状態を確信を持って無条件で断定するのか? それともその動作は話者の主観の中で不確実なのか? 不確実であるとすれば、どの程度不確実なのか? それは条件付で言えることなのか? 話者の願望の中にある可能性なのか? あるいは、話者の意志の圧力を誰かに掛けないと事実にならないような可能性なのか? この面での話者の“確信の度合い”を、「法」と呼ぶ。英語の文法用語で言うなら mode ないし mood に当たり、ギリシャ語の文法用語では ἔγκλισις と呼ばれる。右の絵では

